

図書館が住民に働きかける観光振興事業について

崎山 百合子
大村市立図書館

1 はじめに

現在、地方では人口減少とそれに伴う経済の衰退が大きな課題となっている。その解決策の一つと言われているのが観光振興であり、各自治体で様々な取り組みが行われている。人口減少率の高さが全国 5 位と全国的に見ても深刻な状況にある長崎県においても、その対策の一つとして観光消費の拡大を図るための魅力ある観光まちづくりが推進されている。

このような中、大村市は、令和 4 年（2022 年）9 月に西九州新幹線の新大村駅が開業し、長崎空港や高速のインターチェンジと合わせて県内でも交通アクセスに恵まれたまちとなった。これを契機に観光をはじめとする様々な産業の活性化が大いに期待されているが、そのためには官民一体となって観光振興に取り組むことが必要である。

現在、行政の観光政策で図書館は意識されておらず、地域の観光と図書館の結びつきは薄い。確かに、図書館の主要利用層は住民であり、観光客が図書館を訪れる機会は少ない。しかし、観光振興には、観光客を受け入れる住民側の意識・体制づくりも重要である。地域のハブ機能を有し、幅広い年代の住民が訪れる図書館だからこそ効果的な取り組みもあるはずだ。そこで、本レポートでは、図書館の主要利用者である住民を対象にした地域の観光振興について図書館がどのように寄与できるか考えた。

2 事業の背景と現状

2.1 ミライ o n 図書館

ミライ o n 図書館は、令和元年（2019）10 月に開館した長崎県立長崎図書館と大村市立図書館が共同運営している一体型図書館であり、大村市歴史資料館との複合施設「ミライ o n」内にある。現在、当館では、長崎県職員と大村市職員が縣市それぞれの関係機関と連携しながら課題解決支援サービスを行い、知の拠点として県民市民を支えている。2 つの図書館が施設区分のない 1 つの図書館として整備されていることから、市立図書館の予算ではなかなか用意できない県立図書館クラスの蔵書やデータベースも利用者に提供できるということが大村市立図書館における課題解決支援サービスの大きな強みとなっている。

2.2 大村市の観光政策

本市の観光振興政策を確認すると、『観光交流まちづくり計画 2016-2025』では、観光資源を活かした四季を通じて観光できるまちづくりを目指しており、具体的な施策として「官民協同による観光地づくり」、「おもてなしを推進する観光地づくり」、「情報発信を強化した観光地づくり」などに取り組んでいる。

『第 5 次大村市総合計画』では、基本目標の一つ「活力に満ちた産業のまち」の中で

「歴史や自然を活かした観光のまちづくり」を掲げており、「観光客受入体制の整備」として自然や歴史を活かした観光地の魅力向上、情報発信やプロモーション活動の強化、観光推進体制の充実と人材育成に努めることとしている。また、この計画では令和 7 年（2025）までに年間の観光客数を 260 万人と目標設定している。

しかしながら、『長崎県観光統計』によると平成 29 年（2017）には 200 万人に達していた観光客数は、令和 2 年（2020）には新型コロナウイルス感染症の影響により約 150 万人へと激減している。令和 3 年（2021）には約 160 万人に増え回復傾向にあるものの依然としてコロナ禍前と比べ観光客数は減少したままである。

3 事業案について

3.1 概要

図書館の機能や豊富な資料を使いながら関係機関と連携し、高校生をはじめとする市民に大村市の魅力を学び発信してもらうワークショップと市民公募による写真展を開催する。

3.2 目的

本事業の目的は、観光推進体制の充実と将来の観光人材育成の促進、広報活動の強化によって大村市の観光振興に寄与することである。これにより市民の郷土への愛着やおもてなしの意識を育むとともに、高校生にはよりよい地域の創り手となるための資質・能力を身に付けることも期待したい。

3.3 対象

本事業の対象は、大村市の歴史文化に関心のある市民と市内の高等学校の生徒とする。高校生を対象としたのは、「総合的探究の時間」の授業の一環としてこの事業に参加してもらうことで、次世代を担う若者の力を地域に活かそうと考えたためである。

3.4 具体策

3.4.1 ワークショップ

市民に、大村市の魅力を学び発信してもらうワークショップを開催する。このワークショップは、「まち歩き」と「コンテンツ作成講座」の 2 つから構成される。

① まち歩き

参加者は、専門家やまちの人たちと実際に歩いたり体験活動をしたりしながら大村市の魅力について学ぶ。この街歩きでは、関連機関と連携し内容の異なる次の 3 つのコースを設定する。参加者は自分の興味のあるコースでまち歩きを楽しみながら、専門家や他の参加者との世代間交流を通してまちへの理解を深める。

コース名	内容
歴史散策コース	歴史資料館職員と観光コンベンションのボランティアガイドの解説で史跡を巡る大村の歴史に親しむコース
大村の今を知るコース	商店街店主や特産品生産者の声を聞く大村の産業やまちの魅力を知るコース
アウトドアコース	キャンプ場などで体験活動を行う大村の自然に触れるコース

② コンテンツ作成講座

「まち歩き」の参加者が大村市の魅力を発信するコンテンツを作成する。コンテンツは、大村市に関するウィキペディアページとフリーペーパーとし、各専門家から直接レクチャーを受けられる講座を開催する。この講座の中で、図書館職員は必要な資料を提供するとともに、その活用法を説明し参加者のフォローアップを行う。

コンテンツ	内容
ウィキペディア	<ul style="list-style-type: none"> 参加者は歴史資料館職員、ウィキペディア編集者のレクチャーを受けながら、大村市のウィキペディアページを編集する。 図書館職員は参加者にウィキペディアの編集に役立つ資料を提供し、必要な情報の探索や活用法について説明する。 編集後は、図書館や市内各所にウィキペディアにアクセスできるQRコードを掲示する。
フリーペーパー	<ul style="list-style-type: none"> 参加者は地元のエリア情報誌編集者のレクチャーを受けながら、フリーペーパーを作成する。 図書館職員は参加者にフリーペーパーの作成に役立つ資料を提供し、必要な情報の探索や活用法について説明する。 完成後は市内の事業所や、高校生フェス、姉妹都市の物産展、東京にある長崎のアンテナショップなど県外でも配布する他、図書館及び市の公式SNSで広く発信する。 また、図書館の電子書籍サービスのコンテンツの一つとして公開する。

3.4.2 おおむら今昔写真展

大村市歴史資料館と連携して、市内各所の今と昔を比べる写真展「おおむら今昔写真展」を開催する。大村市歴史資料館の資料である市内各所の昔の写真を「お題」として事前に公開し、その場所の今の写真を市民から募集する。写真の募集には市の公式インスタグラ

ムも活用し、若い世代も気軽に参加できるようにする。写真の場所は「まち歩き」のコースと連動させ、まち歩きの参加者にも写真展へ積極的な参加を呼びかける。

写真展の開催時には、写真と紹介パネルの他、大村市に関する図書資料や観光パンフレット、ガイドマップ、図書館で作成したパスファインダー、ワークショップで作成したフリーペーパーを設置し、写真展を訪れた方に郷土への理解と愛着をより深めてもらうための情報提供を行う。

3.5 連携先

下記のとおり、事業の連携先は大村市役所の観光や産業に関する部署とその関連機関、市内の高等学校とした。

- ・大村市産業振興部
大村商工会議所、大村市物産振興協会、大村市観光コンベンション協会、
その他大村市内の事業所
- ・市内の高等学校
大村高校、大村城南高校、大村工業高校、向陽学園高校
- ・大村市歴史資料館

4 スケジュール

下記のとおり、スケジュールは準備期間1年、実施期間2年の3年計画とした。



実施1年目の1年間のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ワークショップ		周知開始	まち歩き	コンテンツ作成講座			参加者のコンテンツ作成 フォロー		フリーペーパー 印刷		見直し・次年度準備	
おおむら 今昔写真展		周知開始					写真募集・展示準備				写真展開催	見直し 次年度準備

5 おわりに

今回の講習を受講し、図書館が地域を支援することの重要性に改めて気づかされた。どの方の講習も大変勉強になったが、一番心に残っているのは、豊田先生の講習の中での

「地域の人が図書館は本を貸し出す施設としか理解していないという嘆きは地域の人が悪いのではなく図書館員が地域に入り込んでいない証拠なのかもしれない」という言葉であった。図書館が地域から信用を得るには、まず図書館が地域に入り込み、地域住民のニーズを把握しなくてはならない。今の自分に足りないものを教えていただいた。

ワークショップについては、班のメンバーが自分にはない視点・発想で企画をブラッシュアップしてくれ、改めて人が繋がり協力することの強さ、重要さを感じた。併せて他の班の企画もそれぞれに練り上げられておりとても興味深く、今後の図書館サービスのヒントになるようなたくさんの良い刺激を受けた。

また、全国の図書館員の方との情報交換も大変有意義であった。皆それぞれに同じような悩みを抱えながらも、地域のために熱心に取り組んでいることが伝わってきて、限られた時間ではあったが実りの多い時間となった。

この講習を受講した約三か月、毎回新しい学びや気づきがあり大変充実していた。これからは、この講義で学んだことを活かし、他の職員と力を合わせて図書館から地域を盛り立てていきたい。

最後に、本講習会を準備・運営してくださった事務局のみなさま、ご指導いただいた講師の先生方に感謝申し上げます。

【参考文献・URL等】

(1) 『第2期長崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略』

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kenseijoho/kennokeikaku-project/sousei/582940.html>

(2) 『観光交流都市（まち）づくり計画』

<https://www.city.omura.nagasaki.jp/kankou/shise/syokai/shisakukeikaku/keikaku/kankoushinkou.html>

(3) 『第5次大村市総合計画』

<https://www.city.omura.nagasaki.jp/shise/shokai/shisaku/shisaku/dai5ji/index.html>

(4) 『長崎県観光統計データ（平成21年～令和3年）』

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/kanko-bussan/statistics/kankou-toukei/296549.html>

(5) 『国際文化研修2021年 秋 第113号』 観光政策の現状と課題

<https://www.jiam.jp/journal/pdf/113-02-01.pdf>

(6) 『観光文化 243 号』 観光と図書館～地域の観光に図書館はどう寄与できるか～
<https://www.jtb.or.jp/tourism-culture/bunka243/>